

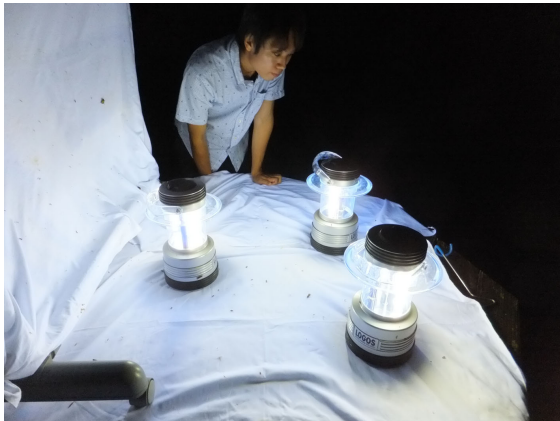
塘研究室現地調査報告 3

7月10日の夜(19:15-20:30), 裏磐梯のレンゲ沼前にてヒメシロカゲロウ属の一種の成虫の羽化時間を調べるための調査を実施しました。調査者はヒメシロカゲロウ属を修士論文研究のテーマにしている塘研究室の大学院生(増淵翔太)と教員の2名です。

未記載種であるヒメシロカゲロウ属の一種については、裏磐梯以外にも幼虫の生息地を発見しており、そこではこれまでに2回のライト・トラップ(灯火採集)を実施しましたが、成虫は得られませんでした。そこで、本種の幼虫が生息している裏磐梯の池で、ライトを設置し易い(駐車場から池までの距離が短い)レンゲ沼でのライト・トラップを実施しました。

ライトを点灯してから約15分後、待望の成虫がやってきました。本種は体長5mm程度の小さなカゲロウですが、3回目のトラップでやっと採集できたこともあり、とても大きく見えました。この日採集できたのは3個体だけでしたが、いずれもやってきたのは日没直後の時間帯でした。ヒメシロカゲロウ類の中には夜明け直前に羽化するタイプもいますので、その時間帯に羽化するか否かを調査する必要がありますが、この種は日没直後に羽化するタイプである可能性が高いようです。

今回のライト・トラップでは、途中から雨が降り始め、雨脚が強い時間帯もありましたが、マダラミズメイガ、オオシマトビケラ、ヒゲナガトビケラ類、ヒゲナガカワトビケラ類、ユスリカ類、フサカ類など、レンゲ沼や付近の河川に幼虫が生息している種、コガネムシ類、ヨコバイ類、ヒメバチ類など、池とは無関係ではあるものの、灯火に誘引される種が次々に飛来しました。



裏磐梯レンゲ沼前でライト・トラップ実施中



ライトに誘引されたマダラミズメイガ



待望のヒメシロカゲロウ属の一種が飛来



途中、雨も降りましたが、成果は上々